

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

### <団体情報>

担当小委員会	第 23-1 小委員会
事務局	一般社団法人日本配線システム工業会 (原案作成 一般財団法人日本規格協会)

### <規格情報>

規格番号（発行年）	JIS C 8285（2025）
対応国際規格番号：発行年	IEC 60309-1:2021（Ed. 5.0）
規格タイトル	工業用プラグ，固定形又は可搬形コンセント及び機器用インレット
適用範囲に含まれる主な電気用品名	差込みプラグ，コンセント，コードコネクタボディ，器具用差込みプラグ（工業用）
廃止する基準（発行年）及び有効期間	J60309-1（2019） / 有効期間 3 年間
雑音の強さ（当てはまらない選択肢を消去）	・この規格を適用

### <審議中に問題となったこと>

審議中に問題となった主な事項は，次のとおり。

- a) **“contact” の和訳（全般）** “contact” は，コンセントに用いる場合は，“接点”，プラグ及び機器用インレットに用いる場合は“極”と和訳されていたため，和訳を統一するか，又は使い分けかについて審議した。その結果，“contact” が用語及び**定義（3.24）**で“接点”として定義していること，また，この規格は，工業用のプラグ，コンセント及び機器用インレットを対象としており，先端に絶縁エンドキャップを備えた複雑な構造のプラグも想定していることから，単純な構造をイメージする“極”よりも“接点”とした方がよいと判断し，“contact” の和訳は，原則，“接点”で統一することとした。
- なお，他のプラグ，コンセントなどの規格についても，“contact” の和訳を統一するののかとの意見があり，これについて審議した結果，対応国際規格における用語の使い分けなどを考慮した上で，対象とする製品規格ごとに審議して決めることとした。
- b) **電線交換形アクセサリの表示（7.5）** 対応国際規格で追加された段落である“中性端子及び／又は接地端子を示す追加の表示に，次の記号を用いてもよい。”は，追加表示なのか，又は置き換え表示なのか，分かり難いため審議した。IEC 審議文書などを調査した結果，この規定は，“追加の表示”であり，従来の技術的差異事項（デビエーション）とは異なる内容であることがわかったため，デビエーションを含めて全体を見直すこととした。また，接地側極への表示のデビエーションを，規定の強化にならないように追加し，さらに，三相の各相極の記号“R1, S2, T3”は，IEC の旧規格の記号であるため削除することとした。
- c) **寸法（8.3）** 旧規格では，プラグ及び機器用インレットが，不適切な接続ができてはならないコネクタとして，**JISC 8303**（配線用差込接続器）をデビエーションで追加しているが，このデビエーションを残すかどうかについて審議した。審議した結果，工業用のアクセサリと一般用途の差

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

込み接続器とのかん合は適切とはいえないため、デビエーションとして残すこととした。

- d) **端子及び終端の共通要求事項 (11.1.4)** 端子のめっき厚さに関する要求事項において、対応国際規格では、“ISO のサービスコンディションナンバ”の記載があり、これについて、説明が必要ではないかとの意見があったため審議した。引用している JIS 及びその対応国際規格 (ISO 規格) を調べたところ、この規格の対応国際規格の記載と一致しないところがあること、また、ISO コンディションナンバは、使用条件を規定するものであって、めっき厚さを特定していない ISO 規格もあることから、混乱をさけるため、この規格からは“ISO のサービスコンディションナンバ”を削除することとした。
- e) **端子及び終端の共通要求事項 (11.1.4)** 対応国際規格では、“その他の金属を用いる場合、銅と同等以上の耐腐食性及び適切な機械的特性をもつことを調査しなければならない。”と規定されているが、どのような調査をどの程度行えばよいのか説明が必要でないかとの意見があったため審議した。その結果、11.1.4 の最後に“適否は、目視検査及び化学分析によって判定する。”とあるので、この規格では、“その他の金属を用いる場合、銅と同等以上の耐腐食性及び適切な機械的特性をもたなければならない。”と意識することとした。
- f) **短時間耐電流試験 (11.7.2)** 旧規格では、端子の試験において、所定の電流に耐える時間が“1 分間”となっているが誤記と思われるため、対応国際規格に合わせ、“1 秒間”に修正することとした。
- g) **定格及び試験条件 (29.2.2)** 対応国際規格では、図 20 の“注 b) Ur1, Ur2 及び Ur3 は、相と中性との間に接続してもよい。”とあるが、“Ur2 及び Ur3”は、不要ではないかとの意見があったため、審議した結果、対応国際規格の明らかな誤記であるため、この規格では“Ur2 及び Ur3”を削除することとした。

### <主な改正点>

主な改正点は、次のとおり。

- a) **用語の変更 (全般)** “コネクタ (connector)”の用語を、“可搬形コンセント (portable socket outlet)”に変更した。
- b) **シャッタのあるアクセサリ (6.9, 9.4 及び 24.6)** シャッタのあるアクセサリについて、区分、感電に対する保護及び機械的強度の規定を追記した。
- c) **端子の表示 (7.5)** 中性線専用端子及び／又は接地端子を示す表示に、追加してもよい表示を規定した。

## 技術基準との整合確認書

<技術基準省令への整合性>

規格番号：JIS C 8285:2025 規格名：工業用プラグ，固定形又は可搬形コンセント及び機器用インレット

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第二条 第1項	安全原則	電気用品は，通常の使用状態において，人体に危害を及ぼし，又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条4 4.1	箇条4 一般要求事項 4.1 アクセサリは，通常の使用においてその性能に信頼がおけ，安全性が JIS Z 8051に定義される許容可能なレベルまでリスクを低減させることによって達成される設計及び構造でなければならない。	
第二条 第2項	安全原則	電気用品は，当該電気用品の安全性を確保するために，形状が正しく設計され，組立てが良好で，かつ，動作が円滑であるものとする。	■該当 □非該当	箇条8  箇条10 10.4  箇条11 11.1  11.4  箇条14	箇条8 寸法 アクセサリは適切なかん合性をもたなければならない。 箇条10 接地接続 10.4 接地接点は，機械的損傷から保護するように覆うか又は防護しなければならない。 箇条11 端子及び終端 11.1 端子及び終端の共通要求事項 電線交換形アクセサリは，端子を備えていなければならない。 11.4 絶縁貫通端子（IPT） 絶縁貫通端子は，規定の公称断面積をもつ銅又は銅合金製の導体を適切に接続可能なものでなければならない。 箇条14 構造	

## 技術基準との整合確認書

				14.1.2	14.1.2 コンセント接点を備えた部分又はプラグ若しくは機器用インレットの接点を備えた部分を、箱又は外郭内の取付面に固定するためのねじ又はその他の手段は、容易に触れることが可能なものでなければならない。	
				14.1.3	14.1.3 コンセントの互換性手段、又はプラグ若しくは機器用インレットの互換性手段に対して接地接点又は中性接点がある場合は、その位置が変更することが可能であってはならない。	
				14.2	14.2.1 コンセントの接点及び極は、対応するアクセサリがかん合したときに適切な接触圧力が確保されるように設計しなければならない。	
				箇条 15	箇条15 固定形コンセントの構造 固定形コンセントは、適切なかん合性をもたなければならない。	
				箇条 16	箇条16 プラグ及び可搬形コンセントの構造 プラグ及び可搬形コンセントは適切なかん合性をもたなければならない。	
				箇条 20	箇条20 開閉容量 インターロックのないアクセサリは、適切な開閉容量をもたなければならない。	
				箇条 23	箇条23 可とう電線及びその接続 23.2.2 電交換形プラグ及び可搬形コンセントは、電線に結び目を付ける又は両端をひもで縛るといった、間に合わせの方法を用いてはならない。	

## 技術基準との整合確認書

				<p>箇条 25</p> <p>25.2</p> <p>25.3</p> <p>25.4</p> <p>箇条 26</p> <p>26.2</p>	<p>箇条25 ねじ、通電部及び接続部</p> <p>絶縁材のねじ部とかん合し、アクセサリを接続するときに操作するねじは、適切なかん合長さをもたなければならない。</p> <p>25.3 電氣的接続部は、絶縁材を通じて接触圧力が伝わらないように設計しなければならない。</p> <p>25.4 電氣的及び機械的接続部の役目をするねじ及びリベットは、緩まない構造でなければならない。</p> <p>箇条26 沿面距離、空間距離及びシーリングコンパウンドを通しての絶縁距離</p> <p>26.2 シーリングコンパウンドは、それを収納する空洞の縁からはみ出してはならない。</p>	
<p>第三条</p> <p>第1項</p>	<p>安全機能を有する設計等</p>	<p>電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。</p>	<p>■該当</p> <p>□非該当</p>	<p>箇条 9</p> <p>9.2</p> <p>箇条 12</p>	<p>箇条9 感電に対する保護</p> <p>9.2 接地接点をもつアクセサリは、プラグ又は可搬形コンセントを差し込むとき、相接続及びある場合は中性線の接続が行われる前に、接地接続が行われ、かつ、プラグ又は可搬形コンセントを引き抜くとき、接地接続が切れる前に、相接続及びある場合は中性線が切れるように設計しなければならない。</p> <p>箇条12 インターロック</p> <p>定格電流が 250 Aを超えるアクセサリ又は負荷を加えた状態で開閉を意図しないアクセサリは、規定のインターロックを備えるか、又は規定のインターロックが組み込めるようになっていなければならない。</p>	

## 技術基準との整合確認書

<p>第三条 第2項</p>	<p>安全機能を有する設計等</p>	<p>電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。</p>	<p>■該当 □非該当</p>	<p>箇条7</p>	<p>箇条7 表示</p> <p>次の事項を表示しなければならない。</p> <p>ーアクセサリには、定格電流、定格動作電圧又は定格動作電圧範囲、形式参照番号、保護等級、及び接地接点又はその他の互換性をもたせるための接地の手段の位置に表示する図記号</p> <p>ー固定形コンセント及び機器用インレットは、定格電流、必要の場合は電源の種類に関する記号、及び製造業者又は責任ある販売業者の名称又は商標</p> <p>ー電線交換形アクセサリは、端子を規定の記号で表示</p> <p>ーねじなし端子付きのアクセサリには、端子に導体を挿入する前に除去する絶縁被覆の長さ、等</p> <p>箇条23 可とう電線及びその接続</p> <p>23.2.1 電線非交換形プラグ及び可搬形コンセント</p> <p>接地端子に接続する線心を緑と黄色との組合せで識別しなければならない。</p> <p>23.2.2 電線交換形プラグ及び可搬形コンセント</p> <p>アクセサリ内のいずれかの部品が所定位置にない場合に備え、指示書には必要な部品及び組立方法を明示しなければならない。</p>	
<p>第四条</p>	<p>供用期間中における安全機能の維持</p>	<p>電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。</p>	<p>■該当 □非該当</p>	<p>箇条11</p> <p>11.1</p> <p>11.1.4</p>	<p>箇条11 端子及び終端</p> <p>11.1 端子及び終端の共通要求事項</p> <p>11.1.4 端子部及び終端部は、機器に生じる条件下で、意図した使用に適切な機械的強度、導電性及び</p>	

## 技術基準との整合確認書

				11.1.5	耐食性をもつ金属製のものでなければならない。 11.1.5 接地端子の本体がアルミニウム又はアルミニウム合金のフレーム又は外郭の一部である場合、銅とアルミニウム又はその合金との接触から生じる腐食の危険を避ける予防措置をとらなければならない。	
				11.6	11.6 ねじなし端子及び絶縁貫通端子の電圧降下試験 端子部は、規定の温度サイクル試験後、割れ、変形など、さらに使用する上で妨げとなるような明らかな変化があつてはならない。	
				11.7	11.7 絶縁部を経由して接触圧力を伝達する絶縁貫通端子の試験 端子部は、規定の温度サイクル試験後、割れ、変形など、さらに使用する上で妨げとなるような明らかな変化があつてはならない。	
				箇条 13	箇条13 ゴム及び熱可塑性材料の耐劣化性 ゴム製又は熱可塑性材料製の外郭並びにシーリングリング及びガスケットといったエラストマ製の部分をもつアクセサリは、十分な耐劣化性をもたなければならない。	
				箇条 15	箇条15 固定形コンセントの構造	
				15.5	15.5 蓋にスプリングが付いている場合、それは青銅、ステンレス鋼又は適切に耐食保護したその他の適切な材料でなければならない。	
				箇条 16	箇条16 プラグ及び可搬形コンセントの構造	

## 技術基準との整合確認書

				16.5	16.5 蓋のスプリングは、青銅、ステンレス鋼又は適切に耐食保護したその他の適切な材料でなければならない。	
				箇条 20	箇条20 開閉容量 プラグ及びコネクタ抜き差し耐久試験後、試験品は、その後の使用を妨げるような損傷があつてはならない。また、プラグの接点の入口の穴が重大な損傷を示してはならない。	
				箇条 21	箇条21 通常操作 アクセサリは、過度の摩耗又はその他の有害な影響なしに、通常の使用で生じる機械的応力、電氣的応力及び熱応力に耐えなければならない。	
				箇条 24	箇条24 機械的強度	
				24.4	24.4 電線非交換形アクセサリは、規定の耐久曲げ試験後、この規格の要求事項を満足しなくなる損傷があつてはならない。	
				箇条 25	箇条25 ねじ、通電部及び接続部	
				25.1	25.1 電氣的又はその他の接続部は、通常の使用で生じる機械的応力に耐えなければならない。	
				25.6	25.6 通常の使用で滑り作用を受ける接点は、耐食性の金属製でなければならない。	
				箇条 28	箇条28 耐食性 外郭を含む鉄製部分は、さびから適切に保護しなければならない。	
第五条	使用者及び使	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考	■該当	箇条 14	箇条14 構造	



## 技術基準との整合確認書

	用場所を考慮した安全設計	慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	□非該当	<p>14.1.4</p> <p>箇条 16</p> <p>16.5</p> <p>箇条 18</p> <p>18.1</p> <p>18.3</p> <p>箇条 26</p> <p>26.1.4</p>	<p>14.1.4 通常の使用状態のように取り付け、プラグが所定位置にない場合には、コンセントは、その表示に示す保護等級を確保しなければならない。</p> <p>箇条16 プラグ及び可搬形コンセントの構造</p> <p>16.5 対応するアクセサリとかん合していないとき、可とう電線を通常の使用状態のように取り付けた可搬形コンセントは、表示の保護等級を確保する手段を組み込まなければならない。</p> <p>対応するアクセサリと完全にかん合したとき、可とう電線を通常の使用状態のように取り付けた可搬形コンセントは、表示した保護等級を確保する手段を組み込まなければならない。</p> <p>箇条18 保護等級</p> <p>18.1 アクセサリは、製品に表示した保護等級に対応する要求事項に適合しなければならない。</p> <p>18.3 全てのアクセサリは、通常の使用で生じる湿潤状態に耐えなければならない。</p> <p>箇条26 沿面距離、空間距離及びシーリングコンパウンドを通しての絶縁距離</p> <p>26.1.4 アクセサリは、JIS C 60664-1:2023に従って、汚損度3に対する設計でなければならない。</p>	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	<p>■該当</p> <p>□非該当</p>	<p>箇条 27</p> <p>27.1</p>	<p>箇条27 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性</p> <p>27.1 アクセサリは、十分な耐熱性をもたなければならない。</p> <p>絶縁材料製の部分について、規定するボールプレッ</p>	

## 技術基準との整合確認書

				27.2	シャー試験に適合しなければならない。 27.2 絶縁材料製の外郭部分及びアクセサリの充電部を支持する絶縁部分は、異常な熱及び火に対する耐性がなければならない。	
				27.3	27.3 充電部の周囲の絶縁部分は、耐トラッキング性をもつ材料でなければならない。	
第七条 第1項	感電に対する 保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。 一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。	■該当 □非該当	箇条9 9.1	箇条9 感電に対する保護 9.1 アクセサリは、通常の使用状態のように配線したときのコンセントの充電部、並びに対応するアクセサリと部分的又は全面的にかん合したときのプラグ及び機器用インレットの充電部が可触でないように設計しなければならない。	
				9.3	9.3 プラグの接点に通電する部分をコンセントの外郭に間違って組み付けることが可能であってはならない。	
				9.4	9.4 シャッタを備えるアクセサリの場合、シャッタは、規定するゲージが、プラグがかん合していないときに充電部に接触しない構造でなければならない。	
				箇条11	箇条11 端子及び終端	
				11.1	11.1 端子及び終端の共通要求事項	
				11.1.8	11.1.8 端子又は終端は、端子又は終端から外れた導体が他の金属部に接触することがないように配置又は遮蔽しなければならない。	
				11.1.9	11.1.9 導体を適切に固定している場合は、異極の充	

## 技術基準との整合確認書

				<p>電部同士又は充電部と可触金属部との偶発的接触の危険があつてはならず、また、より線導体の素線が端子又は終端から外れた場合は、その素線が外郭の外に出る危険があつてはならない。</p> <p>箇条 18 18.2 保護等級</p> <p>18.2 規定の保護等級で排水口を備えるアクセサリにあつては、該当するブローブはエンクロージャの中の充電部に触れることが可能であつてはならない。</p> <p>箇条 27 27.1 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性</p> <p>27.1 規定の環境温度試験後、その後の使用を妨げるような変化があつてはならず、充電部が露出してしまふほどシーリングコンパウンドが流れてはならない。</p>	
<p>第七条 第2項</p>	<p>感電に対する 保護</p>	<p>二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。</p>	<p>■該当 □非該当</p>	<p>箇条 10 10.1 接地接続</p> <p>10.1 接地接点をもつアクセサリには、接地端子を付けなければならない。</p> <p>10.2 絶縁不良の場合に充電部となることがある接地接点をもつアクセサリの可触金属部は、構造によって接地端子に確実に接続しなければならない。</p> <p>箇条 15 15.6 固定形コンセントの構造</p> <p>15.6 定格動作電圧が交流50 V又は直流120 Vを超える固定形コンセントには、接地接点を付けなければならない。</p> <p>箇条 16 16.6 プラグ及び可搬形コンセントの構造</p> <p>16.6 定格動作電圧が交流50 V又は直流120 Vを超え</p>	

## 技術基準との整合確認書

					るプラグ及び可搬形コンセントには、接地接点を付 けなければならない。	
第八条	絶縁性能の保 持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがあ る内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応 じ、絶縁性能が保たれるものとする。	■該当  □非該当	箇条 18  18.2   箇条 19   箇条 21   箇条 24  24.7.2   箇条 26   26.1   箇条 29  29.2.5	箇条18 保護等級  18.2 アクセサリは、規定の保護等級試験後、規定す る耐電圧試験に耐えなければならない。  箇条19 絶縁抵抗及び耐電圧 アクセサリは、適切な絶縁抵抗及び耐電圧性能をも たなければならない。  箇条21 通常操作 アクセサリは、規定の通常操作後、規定する耐電圧 試験に耐えなければならない。  箇条24 機械的強度 24.7.2 接点に絶縁エンドキャップがあるアクセサリ は、通常の使用で生じる温度ストレス条件によって 悪影響を受けてはならない。  箇条26 沿面距離、空間距離及びシーリングコンパ ウンドを通しての絶縁距離 26.1 沿面距離、空間距離及びシーリングコンパウン ドを通しての絶縁距離は、規定する値以上でなけれ ばならない。  箇条29 条件付き短絡電流試験 29.2.5 合格条件 規定の短絡大電流試験後、アクセサリは規定する耐 電圧試験に合格しなければならない。	
第九条	火災の危険源	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は	■該当	箇条 21	箇条21 通常操作	

## 技術基準との整合確認書

	からの保護	物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	<input type="checkbox"/> 非該当	<p>箇条 27</p> <p>27.2</p> <p>箇条 29</p> <p>29.2.5</p>	<p>プラグ又はコネクタは、規定の通常操作中に、持続的なアークが生じてはならない。</p> <p>箇条27 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性</p> <p>27.2 絶縁材料製の外郭部分及びアクセサリの充電部を支持する絶縁部分は、異常な熱及び火に対する耐性がなければならない。</p> <p>箇条29 条件付き短絡電流試験</p> <p>29.2.5 合格条件</p> <p>コンセント及び結合するプラグに短絡大電流を流す規定の試験後、極間にアーク又はフラッシュオーバーがあつてはならない。</p>	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<p>箇条 22</p>	<p>箇条22 温度上昇</p> <p>アクセサリは、通常の使用での温度上昇が過大にならない構造でなければならない。</p> <p>端子の温度上昇は、50 K以下でなければならない。</p>	
第十一条 第1項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<p>箇条 11</p> <p>11.5</p> <p>箇条 14</p>	<p>箇条11 端子及び終端</p> <p>ねじ形端子、ねじなし形端子及び絶縁貫通端子は、十分な接触圧力で、導体をきず付けることなく金属面の間に導体を締め付けるように設計しなければならない。</p> <p>11.5 端子の機械試験</p> <p>11.5.1 端子に規定の荷重を加えたとき、端子が導体に損傷を与え、それ以上使用することができなくなつてはならない。</p> <p>箇条14 構造</p>	

## 技術基準との整合確認書

				14.1.1 箇条 23 23.2.2	14.1.1 アクセサリの可触面に、ぼり、鋳ぼり及びこれに類する鋭い角があつてはならない。 箇条 23 可とう電線及びその接続 23.2.2 電線交換形プラグ及び可搬形コンセント ケーブル止めは、電線に対する鋭い角があつてはならない。 電線入口に電線の損傷を防止するスリーブを付ける場合、そのスリーブは、滑らかで、ぼりがあつてはならない。	
第十一条 第2項	機械的危険源 による危害の 防止	電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条 11  11.3 11.3.8  11.5 11.5.2  箇条 15 15.2	箇条11 端子及び終端 ねじ形端子、ねじなし形端子及び絶縁貫通端子は、適切な機械的強度をもたなければならない。 11.3 ねじなし端子 11.3.8 ねじなし端子は、導体が通常取付けの間に曲げられることがあつても、接続した導体を締め付けたままの状態になっているように設計しなければならない。 11.5 端子の機械試験 11.5.2 規定の引張力を導体に加えたとき、導体が端子から外れて落ちたり、導体が締付ユニットのところで、又はその中で断線するようなことがあつてはならない。 箇条15 固定形コンセントの構造 15.2 固定形コンセントの外郭及び感電保護を行う部分は、適切な機械的強度をもたなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

					それらは、通常の使用で緩まないようにしっかりと固定しなければならない。工具を用いずにそれらの部分を取り外せてはならない	
				15.4	15.4 絶縁裏打ち、バリア及びこれに類するものは、適切な機械的強度をもたなければならない。	
				箇条 16	箇条16 プラグ及び可搬形コンセントの構造	
				16.3	16.3 絶縁裏打ちを付ける場合、絶縁裏打ちは、適切な機械的強度をもち、重大な損傷なしにはそれを取り除くことができないように外郭に固定するか、又は間違った位置に交換することができないように設計しなければならない。	
				箇条 23	箇条23 可とう電線及びその接続	
				23.1	23.1 プラグ及び可搬形コンセントは、導体を端子又は終端に接続したときに、導体からねじれを含む張力を除去し、導体の被覆を摩耗から保護するように、ケーブル止めを付けなければならない。	
				23.3	23.3 規定の導体の張力及びトルク試験で、電線交換形アクセサリは、端子内で導体の端が著しく動いてはならず、電線非交換形アクセサリは、電氣的接続部に破断があつてはならない。試験後に張力を再度加えた状態で、電線が 2 mmを超えて変位してはならない。	
				箇条 24	箇条24 機械的強度	
				24.1	24.1 アクセサリは、適切な機械的強度をもたなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

				24.2	24.2 アクセサリは、通常の使用で生じる打撃を受けた後に、表示している保護等級を完全に維持するのに十分な強度をもたなければならない。	
				24.3	24.3 電線交換形アクセサリ規定の高さからコンクリート床に落下後、この規格の要求事項を1411 満足しなくなる損傷があつてはならず、特に、いかなる部分も外れたり、緩んだりしてはならない。	
				24.5	24.5 円筒金属棒をねじ込みグラウンドに取り付け、規定の力をグラウンドに加える試験後、グラウンド及び試験品の外郭は、この規格の要求事項を満足しなくなる損傷があつてはならない。	
				24.6	24.6 シャッタは、例えば、プラグの接点が意図せずコンセントのシャッタに当たるなど、通常の使用で予期される機械的応力に耐えるように設計しなければならない。	
				24.7.1	24.7.1 絶縁エンドキャップがある場合、絶縁エンドキャップは、通常の使用で予期される機械的応力及び酷使に耐えるように、接点ピンに十分に固定しなければならない。	
第十二条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	箇条4 4.1	<p>箇条4 総則</p> <p>4.1 一般要求事項</p> <p>アクセサリは、通常の使用においてその性能に信頼がおけ、安全性がJIS Z 8051に定義される許容可能なレベルまでリスクを低減させることによって達成される設計及び構造でなければならない。</p>	



## 技術基準との整合確認書

第十三条	電気用品から 発せられる電 磁波による危 害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波 が、外部に発生しないように措置されているものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、通常 の使用において 電磁波による障 害を発生しない ことから、非該 当が妥当と考え る。
第十四条	使用方法を考 慮した安全設 計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状 態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物 件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び 必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条4 4.1	箇条4 総則 4.1 一般要求事項 アクセサリは、通常の使用においてその性能に信頼 が向け、安全性がJIS Z 8051に定義される許容可能な レベルまでリスクを低減させることによって達成さ れる設計及び構造でなければならない。	
第十五条 第1項	始動、再始動 及び停止によ る危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼ し、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、不意 な始動によって 人体に危害を及 ぼし又は物件に 損傷を与えるお それがないた め、非該当が妥 当と考える。
第十五条 第2項	始動、再始動 及び停止によ る危害の防止	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再 始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を 与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、不意 な再始動によっ て人体に危害を 及ぼし又は物件

## 技術基準との整合確認書

						に損傷を与えるおそれがないため、非該当が妥当と考える。
第十五条 第3項	始動，再始動及び停止による危害の防止	電気用品は，不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし，又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に，不意な停止によって人体に危害を及ぼし又は物件に損傷を与えるおそれがないため，非該当が妥当と考える。
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は，当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し，異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに，安全装置が作動するまでの間，回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条10 10.3  箇条11   11.7 11.7.2  箇条23	<p>箇条10 接地接続</p> <p>10.3 接地接点は，過熱することなく相接点の規定電流に等しい電流を流せなければならない。</p> <p>箇条11 端子及び終端</p> <p>ねじ形端子，ねじなし端子及び絶縁貫通端子は，規定の公称断面積をもつ導体を適切に接続可能でなければならない。</p> <p>11.7 絶縁部を経由して接触圧力を伝達する絶縁貫通端子の試験</p> <p>11.7.2 短時間耐電流試験</p> <p>端子は，接続した導体の断面積当たり規定の電流に1秒間耐えなければならない。</p> <p>箇条23 可とう電線及びその接続</p>	

## 技術基準との整合確認書

				23.2  箇条29 29.1	23.2.1 電線非交換形プラグ及び可搬形コンセント 接地用導体及び中性導体がある場合、その公称断面 積は、相導体の公称断面積以上でなければならない。  箇条29 条件付き短絡電流試験 29.1 コンセント及び結合するプラグは、10 kA 又は 製造業者が指定したよりも高い値の最小固有短絡電 流に耐えなければならない。	
第十七条	電磁的妨害に 対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、 安全機能に障害が生じることを防止する構造であるも のとする。	■該当 □非該当	箇条30 30.1	箇条30 電磁両立性  30.1 イミュニティ 電子部品を組み込んでいないアクセサリは、通常の電 磁波の影響を受けないため、イミュニティ試験は必要 ない。 電子回路を組み込んだアクセサリは、JIS C 61000-6-2 に適合しなければならない。	
第十八条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び 電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれ がないものとする。	■該当 □非該当	箇条30 30.2	箇条30 電磁両立性  30.2 エミッション 電子部品を組み込んでいないアクセサリは、連続し た使用を意図しており、通常の使用において電磁波 による障害を発生しない。 電子回路を組み込んだアクセサリは、IEC 61000-6-3 に適合しなければならない。	
第十九条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家 庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によ るものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方	■該当 □非該当	箇条7 7.3	箇条7 表示  7.3 固定形コンセント及び機器用インレットに規定 した表示は、容易に認識可能でなければならない。	

## 技術基準との整合確認書

		法で表示されるものとする。		7.4  7.6  箇条27 27.1	7.4 プラグ及び可搬形コンセントに規定した表示は、容易に認識可能でなければならない。  7.6 表示は、読み取りやすいものでなければならない。表示は、耐久性があり、消えないものでなければならない。  箇条27 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性 27.1 表示は、試験後も容易に読み取れなければならない。	
第二十条 第1項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。  一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。  (イ) 製造年  (ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三 第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。）  (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	扇風機及び換気扇は、当該規格の適用範囲に含まれないため、非該当が妥当と考える。
第二十条 第2項	表示（長期使用製品安全表示制度による	二 電気冷房機（産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	電気冷房機は、当該規格の適用範囲に含まれな

## 技術基準との整合確認書

	表示)	(イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨				いため、非該当が妥当と考える。
第二十条 第3項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	電気洗濯機及び電気脱水機は、当該規格の適用範囲に含まれないため、非該当が妥当と考える。
第二十条 第4項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	テレビジョン受信機は、当該規格の適用範囲に含まれないため、非該当が妥当と考える。